

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くれよんクラブ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 24日		～	令和7年1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33世帯	(回答者数)	20世帯
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 24日		～	令和7年1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常的に保護者の方と、お子さんの様子のお話を伝えあい、関係機関とも連携しながら、より支援に繋げることを心がけている。	親子通園も取り入れながら、送迎時にお子さんの様子や家庭の様子の引継ぎを行えるように職員の役割を意識している。連絡ノートを活用している。	情報交換を定期的にも実施できるよう計画にしていこう。職員間で共通理解を図れるよう日々かつ定期的な情報交換を行っていく。
2	一人ひとりが楽しく過ごせるようなプログラムの実施に努めている。	少人数でのプログラムを中心に、発達や年齢に応じ、スモールステップで取り組める課題を日々計画、実施。修正を行っている。必要によっては個別のプログラムを取り入れている。	発達課題や目的をより明確化した話し合いを実施し、専門療法の職員のアドバイスも取り入れたプログラムを作っていく。
3	外部、内部研修会を計画的に実施し、職員の資質向上を目指している。	職員の資格取得状況や研修の参加状況を計画書にまとめ管理、法人全体でも研修の実施を行っている。	様々な視点での学びや情報収集に努めながら、事業所に必要な学びを職員全体で共有していく時間を計画的に実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族での交流の場や行事が少ない。	父母の会が休止状態。事業所も放デイ機能も加わり、新たな形の実施が必要である。	保護者や職員へのアンケートや話し合いを実施し、新たな意見や父母の会の形を模索していく。
2	地域の方や保育園との交流する機会が少ない。	就園前に関係機関での情報交換や訪問での関わりを実施。定期的な交流の場は少ない。	法人での地域でのイベントに利用児や保護者と共に参加する行事を実施していく。
3	災害時の訓練実施の周知が十分でない。	1か月に1度の避難訓練等、お知らせにて周知し実施している。だが、結果等の報告を全体的には実施していなかった。	定期的に手紙にて周知することと共に、結果や学びも周知していくことや保護者も交えた訓練の実施も計画的に取り組んでいく。